



2011年11月4日修達会にて

元始まり

先生に初めてお会いしたのは、一九九五年の九月でした。大学を卒業し、営業職について私は、その月同期では営業成績も一番になり、絶対調と思っていた矢先、心のバランスを崩し、周りにも迷惑をかけ、奈落の底につきおとされてしまいました。高校生の頃一度バランスを崩してから、二回目の出来事。そんな時、いつも助けに走ってくれて救急車のような役割をしてくれていたのが、叔母である大

和紀子修達夫妻でした。その時も祖母の自宅で伏せつていました。私の枕元で、祖母と叔母が心配そうに話をしてくれていました。そんな時、『そつや、松川さんに電話してみよう！』と言って、叔母が電話をかけてくれました。そして、私の身上を話し、受話器を向けられました。『お話ししてごらん。』と言われ、代わつてはみたものの、松川先生の存在さえ知らなかった私は、『一体誰？何？』と、恐る恐る受話器をとりました。『もしもし』、『あー名前は何？』と聞かれ、小さな声で答えた私に先生は、『君はもつと大きな声で言えるやろ』と返されました。内心『何やこの人・・・』と少し腹の立つた私は、しんどいながらも出せるありつたけの声で名前を叫びました。

『あーもう治った。大丈夫や、ほなね。』その電話はそれで終わり、私と先生の出会いの会話でした。電話を切つて、頭の中にハテナマークがいくつも浮かびました。何となくスッキリとした気持ちになつたことを、今も忘れられず覚えています。そして、それから毎月集う人達のために東京から帰つて来て、お話をしてくださる先生にお会いしたい、ただそれだけの思いで、その日を心待ちにしていました。

それが、先生と出会わせて頂き、その後長い年月をかけてお神といふ存在を身をもつて知り、共に歩ませて頂くきっかけとなつた出来事でした。

お役目

それから、バカな私は、お神が示して下さる道に気づかず、幾度となく、壁にぶつかつては倒れ、また新しい壁を自分で作つては倒れていました。

そして転機が訪れました。毎年行われていたスキー教室に参加させていただいた時、子どもたちと楽しそうにしていた私を見て、先生が、『うん、お前は子どもやな、子どもがいい。』と言われたのです。また、ハテナマークがたくさん頭に浮かびました。その時にどういふ意味でしようとお聞きすればいいものの勇気がなく聞けず、言葉だけがずつと頭の中に残っていました。

そして祖母が出直し、孫たちにと少しづつお金を残してくれました。ブランドもののバッグでも買つて、一生祖母の思い出として大切にしようかなどと考へていたとき、ふとあのときの先生の言葉がよみがえつてきました。そして何となく、子どもと関わるために資格をとろうと思ひ、貴重なお金を、教職をとる為の保育学科のある短大の入学金にあてさせて頂くことにしました。そこからの指導は、今思い返しても申し訳ないくらい鮮やかなものでした。

心定めが確かなものになり、お役目であるということは何となくですが心におかせていただいたとたん、とんとん拍子に、物事はすすみだしました。

その後、教育実習でお世話になつた幼稚園の園長先生から声をかけて頂き、就職試験もなく、就職先が決まり、あつという間に私の先生生活が始まつたのです。

それから、結婚までの八年間、本当に素晴らしい時間を過ごさせて頂きました。毎日の仕事の本当に楽しく、一度も辞めたいと思つたことはありません。これがお役目だと、胸を張って言わせて頂ける仕事に就かせて頂いたことに、心から感謝の思いでいっぱいです。気付けたよと優しく声をかけて下さつた松川先生、家族、支えて下さつた全ての人達、そして何よりお神に感謝です。

と、この文章を書いていくときに窓を見ると、空に虹がでていました。お神は本当に温かくていつも私たちを見守つて下さつていると、また有り難い思いでいっぱいになりました。

あなたが私を思い信じているとき、私もまたあなたを信じ思っていることを忘れないうように。

(020613)

これは私が好きな御神諭です。厳しきお言葉も多い中、優しさのあふれる言葉でときどき思い出しながらきました。これから、お神の大きな優しさの中で

明るく楽しく健やかに生かして頂きたいです。

母になる、そして母

二〇一一年五月十日、十三時五十八分、3666グラムの玉のよう元気な男の子が誕生しました。名前は、私たち夫婦共に教師で、いろんな名前をたくさん見させていたきてきた結果、読みやすく、親しみやすい名前にといいことを念頭において考

え「圭汰」に決定しました。私ですが、採血も怖いくらいに私です。予定日が近くになるにつれ、期待より不安のほうが大

きくなってきたいました。そんなとき、「やっぱ痛いのかな・・・、怖いな」ともらした私に、主人が「朋美ももちろん大変やと思うし、不安やと思

う。でも、生まれてくる赤ちゃんはもつとすごい覚悟をしてこの世の中に生まれてきてくれるんやで。だから頑張つて」と声をかけてくれました。確かに、大変な時代に自ら生まれてくることを決めてくれた頼もしい我が子です。私もその子に恥じないようにしなければと、その言葉から不安や迷いは消えました。そして出産の日。主人にお産に立ち会ってもらいたかったため、常々、お腹の中の我が子に

は、「お父さんがいるときに出ておいで」などと、勝手なお願いをしていました。そして、陣痛が始まったのは、なんと私たち希望していた日でした。それから一三時間後、

圭汰は、元気な産声を上げました。初産にしては安産で、助産師さんからは、「母子共に弱音を吐かない素晴らしいお産でした。」とお褒めの言葉を頂きました。約八時間もの分娩室で、主人はずっと励まし続けてくれましたが、もう一人私のそばですつと汗を拭いたり甲斐甲斐しくお世話をしてくれていたのが、実母でした。

私は立ち会いは主人のみと、事前に産院にお願いしていたにもかかわらず、今思うとこれもお神のお計らいだったのかもしれない。助産師さんが母にも中に入られますか？と声をかけられたのです。母は外で待つていようとなつてきてくれたので、中にはいることになつてしまいました。そして、無事に出産を終え、ドラマでは、きれいに涙を流し感動するシーンをよく見かけますが、実際は「終わつた」といふ安堵感でいっぱいです。横で感動して泣いている主人に声をかけられ、その後、我が子を胸の上に抱かせてもらいました。そして、母におめでとうと声をかけてもらつたとき、ありがとうと握手をしました。その時これまでの母への感謝の思いが一度にこみ上げてきて、涙があふれてきました。似たもの同士でよくけんかもしてききましたが、こんな思いをして私を産んでくれたんだという感謝の気持ち、そして、今まで母に反抗したりした自分への反

省の気持ちなどが一度に沸き上がり、これからはもつと感謝しなければならぬと、この年になり我が子のお陰で改めて気付かせて頂くことができました。そして退院の日、数日続いたお清めの雨が上がり、快晴の天の気をお恵み頂き、実家のある奈良へと帰らせて頂きました。その道中、住まわせて頂いてい

いつも心に太陽を

い。先生は子ども達の太陽でした。これは私が先生をさせて頂いていた間、保護者の方々にかけて頂いて一番うれしかった言葉です。お家の中で、妻は太陽、夫は月であるとお教えを頂いています。私も常々どこにいても人々を照らし続けるひとでありたいと思つてきました。もちろん、雲に隠され、陰つてしまふときもあります。でも、晴れのこない日はない！そう心に励ましかけ、これから歩ませて頂きたいと思つていきます。

私の次のお役目は圭汰をしつかりと育てさせて頂くことです。生まれて間もない子が、すでに周りの人々に勇気と笑顔をあたたけてくれて、また圭汰に負けずより一層妙明楽に過ごさせて頂かな

絆

くではならないと身が引き締まる思いです。まだまだ未熟な私ですが、これからも共によりしくお願い致します。

二〇一一年は様々なことがありました。その中でよく聞いたキーワードが「絆」です。被災地でもたくさんの方々に感謝をしておられる姿を、テレビなどで拝見しました。私達には自分の家族や友達のほかにも、いつも周りに温かく大きな家族がいてくれます。これほどに有り難く強い事はありませぬ。疲れていると何も言わずそつと肩をもらってくれる人、悩んでいると何気ない話をして励ましてくれる人、そんな素晴らしい仲間がいます。そして、何よりいつもお神が私たちを見守つていてくださるということに、感謝の気持ちをお忘れず、また、淡々と段々とお神の御本願のもと立ち働かせて頂きたいと思つていきます。

今年も残りわずかとなりまして。一日一日をしつかりと納めさせて頂き、循環の年二〇一二年を迎えさせて頂きたいと思つていきます。今年も一年ありがとうございました。良いお年をお迎え下さい。

神原 朋美

